

『本朝食鑑』収録の食養生記事に関する分析調査 一才一報一
 日本女大 石川松太郎 和洋女大 高野俊 松田久子
 琢波大附坂戸高 石川尚子

「その3」 妊産婦、乳幼児の健康に関する記事を中心に

目的：「その1」の目的ですべてに述べたように、近世は、人命尊重、とりわけ子ども
 生命尊重の思想が高まったにもかかわらず、医学や生活諸科学も医療施設の普及も共に不
 十分で、妊産婦や乳幼児の死亡率は高かった。そのため、出産・育児は困難な事業であり
 、生活共同体全体の重大な関心事であった。それゆえに、独特な産育習俗も生まれ、子育て
 書や養生書などが数多く出版され、その普及・発展もめざましかったのである。それら
 の中で、今回は『本朝食鑑』を取りあげ、その実態の一端と特徴を明らかにしたい。

方法：『本朝食鑑』の一・二巻に記載されている、植物性食品の穀部、菜部、菓部の分
 野から、妊産婦や乳幼児に効用があるとして勧められている食品食物、また、害があるとして
 禁止している食品食物を抽出し分析した。一方、これらの知識が、どのようにして子女に
 教えられたのかをみるために、女子教訓書の『女重宝記』（女子の生活全般について心得
 得や注意を書いたもの）と、『いなご草』（医学的立場で書いたもの）を取りあげ、その
 収録記事にも注目して、食医的観点のみでなく、女子教育の観点からの考察も試みた。

結果：上記分析をすすめる過程の中で、近世社会においての食養生のあり方と特徴につ
 いて、家政学および女子教育史の観点から、いくつかの興味ある結果が得られたので、こ
 こに発表する。